

事業所名 グループホーム らるご

日付 平成18年12月18日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年
評価調査員 ケアセンター介護支援専門員
経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

百間川の川沿い、ゆるやかに広がる土手道を降りた所にホームがある。自然にいったいの恵まれた環境、思わず深呼吸したくなる。ちょうど朝の散歩から帰ってきた代表者と利用者達に出合う。笑顔に迎えられ、一緒にホームに入る。

代表者は自らの介護経験と民生委員を長く務めた経緯から、介護の在り方を深く考えるようになったそうだ。「出来ない」と諦めたくない、コツコツとできる事を積み上げていきたい。所謂介護のプロではないが、当事者の視点から、会社経営の傍ら人生の第2の仕事として、ホームをサポートしている。「社長、財布がなくなった」と訴える利用者は、「大丈夫、僕がちゃんと預かってる」と言われて安心。「ドライブ行こう」「暮をやろう」次々と利用者からリクエストが出る。代表者自身も利用者との関わりを楽しんでいる。今まで様々なホームを見てきたが、代表者がここまで利用者に溶け込んでいるケースは初めてだ。評価の打ち合わせの席に一人の利用者が共に座ってしまった。代表者も管理者も気にするでもなく話し合いを続ける。利用者は出されたお茶を飲み同席するうちに居眠りを始める。タイミングを見て職員が「あちでコーヒーが入りましたよ」と声かけ、利用者は笑顔で応じる。自然な流れで、実にうまい！このホームの全てが分かった気がした。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

健康管理には特に気を配り、バイタルチェックの記録もきちんとして来ている。しかし、利用者の日常の様子が分かる記録も欲しい。その時々のお話や行動を書き留めてみてはどうだろうか？それは利用者にとっても、かけがえのない生きた記録になると思う。
花見、誕生会、日帰り旅行、らるご祭りと様々な行事を実施している。娯楽室にあるアルバムには利用者の楽しそうな写真満載だ。家族へは月々の請求書と共に写真も送付しているとは聞いたが、せっかくの成果を活かし切れていない気がする。例えば、写真を個別にまとめると、各自のアルバムが出来る。その人の変化も良く分かる。写真に様子を伝える文章をつけると「たより」ができる。これからの行事予定も知らせて、参加を呼びかけるきっかけにもなる。「たより」はそのままホームの歴史ともなる。上手に活用して欲しい。
家族は面会に来る程度と聞いた。行事のお客様としてではなく、協力者としてもっと手伝ってもらってはどうか？利用者を共に支える連帯感もそこから生まれると思う。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	「何事もすぐ結果を出すのではなく、遠回りしてゆるやかに物事を進めたい。家族とも連絡を取り合い訪問を促すなどして、利用者的心豊かにす過ごせるようにしています。開設時もいきなり満室とはせず、意識して毎月一人ずつ入所していただきました。利用者職員がお互いに馴染めたら次の月にまた一人、無理せずゆっくり取り組んでいました」と代表者は言う。ホームの名前「らるご」は音楽用語で「ゆるやかに、ゆったり」と。そして、それはそのままホームの理念である。食堂でお喋りを楽しむ人、「今日は車が多いなあ」テラスに出行き交う車を見てる人、それぞれ心地良い、ゆったりとした時が流れる。職員と、又は利用者同士のやりとり、全てに無理が無く生活リズムはまさに「らるご」、ホームで過ごすうちに私も何時しか「らるご」ここにいと長生きできそうだ。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		

記述項目	内容
	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か
	赤いトレーナーを着た笑顔の利用者に話しかけた。「どちらに住んでいたんですか？」「生まれは四国」と言うと急に泣き出す。「お母さんや妹の事思い出して悲しくなった。隣にいた利用者が「あんたどしたん？」テーブルの向かいに座っていた利用者も「なんも泣く事ないよ、それぞれ気にして慰める。」「みんないい人、優しい人ばかり、嬉しい」と又泣く。「いい人ばかりで良かったですね」と声かけると笑顔に戻った。感情が高ぶってすぐに泣いてしまうこの利用者も、入居者同士のやり取りで気持ちが安定し、なごやかに暮らしている。「職員も含め皆が家族のように生活したい。スタートは疑似家族でもいい」と代表者は言っていたが、すでにここには新しい家族が生まれていると実感した。

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

記述項目	内容
	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か
	玄関から裏まで建物中央に真っすぐに広くて長い廊下がある。「さあ頑張って歩こうか？」職員の声かけて利用者が歩行器で廊下を歩き始める。ゆっくりだが確実に足取りだ。ホームに来た時は歩けなかったと聞いてびっくりした。転倒が原因で歩けなくなり、車椅子生活を余儀なくされていたとの事。最初の一步が怖くてなかなか出なかったが、歩行器訓練を始めて体重も減り体も動き易くなったそうだ。すぐに手で食べていた利用者も、皿のお寿司を皆と同じように箸で食べ始める。食べるだけ食べたら残りはお茶碗に入替え箸で、その次は箸をスプーンに替えて完食。職員の気長い声かけて、もう出来なかったと思っていた事が、「あきらめず出来る事をコツコツと」の成果がここにある。 利用者が楽しく生活する為の支援で一番大切な事は「健康であり、その人の機能を維持していく事」と職員全員で支えている上記のような一例を見ることができた。

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		

記述項目	内容
	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か
	「散歩をしていると、畑仕事をしている近所の人と多くのお出合いがある。その都度、利用者の方が挨拶し、笑顔で話している姿は微笑ましく、幸せを感じる人時です」と職員は言う。地域の人は利用者に声かけし、野菜を持って来てくれ、テラスでお喋りして帰る。どこでも近所づきあいの光景だ。通常難しいと思える地域との交流がうまくできている。毎年ホームで実施している「らるご祭り」は地域の恒例行事ともなっているそうだ。テントを張り、バーベキュー、うどん、日頃にホームの料理等をセルフで食べる。近所の人には「らるごの秋祭りが町内の祭りだ」と言ってくれるそうだ。職員、利用者皆で大きな家族になり、地域に住む。新しい時代のグループホームの在り方だ。